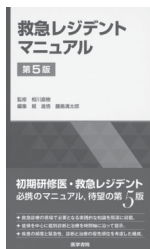


書評

〔評者〕

林 寛之

福井大病院教授・総合診療部



救急レジデントマニュアル 第5版

相川直樹 監修

堀 進悟, 藤島清太郎 編

●B6変・頁536 2013年

定価：本体4,800円＋税

〔ISBN978-4-260-01874-6〕医学書院刊

既に20年！も研修医や実地医家に愛され続けられたのには訳がある。今の研修医が生まれる前からあったんだよね(ウソ)。5年ごとの改訂でついに20年。常に最新の内容に改編し続けた執筆陣のご苦労は並々ならぬものであっただろう。

昔の当直は行き当たりばったりで目の前の患者が来たら先輩医師の見よう見まねで患者さんを診察するという徒弟制度でしか学べなかった。つまり「救急なんて誰でもできるさ(……多分)」と強がりつつ、実はきちんとしたマニュアルがなく、常に当直はビクビクもので、「一晩乗り切れさえすればいい」と考える浅〜い『なんちゃって救急』の時代だった。そこできちんとした型を教え、かつ現場で使えるように、広範囲の知識をギュウギュウ詰めにして登場したのが本書であった。私も同僚もみんな白衣のポケットに入れていました。本書は治療まで細かく言及して、かつ広範囲のエッセンスをアップデートしつつ盛り込んでいたので、専門外でもなんとか急場をしのがないといけな当直医にとってはそれはもう重宝した。

ここで刷新された第5版はポケットに入るという機敏性をそのままに、「型」がきちんと踏襲されて非常に現場で調べやすい、使いやすい装丁になっている。巻頭諸言で述べられている「海図なくして航海ができな

い」のと同じように、きちんとした臨床を行うにはきちんとした海図、つまり本書のような「型」をおさえたマニュアルが必須なのだ。穏やかな海ではいい船員は育たないという。臨床という荒波にもまれて初めて腕のいい医師が出来上がるのだから、救急の現場から逃げていたのではいつまでたっても役に立たないお荷物医師にしかねれないのだ。レジデントは積極的に本書を携えて荒波に出ていってほしい。

ただのマニュアルと侮ってはいけない。本書を手にとると、涙が出るくらい実に細かい所まで記載してある。これは現場に出ている医師でないと書けない内容だ。Early-Goal Directed Therapy などさまざまな個所でアップデートされており、また各手技についても言及し、至れり尽くせりだ。テキストのように読破するというより、救急の現場で急いで調べるのに最適な仕上がりになっている。もちろん将来救急の道に進みたいという根性フルなレジデントはぜひ熟読してほしい。巻末の資料はかゆいところに手が届くものになっている。

初期研修医はもとより、当直で専門外を診ないといけな実地医家にとってはコンパクトな本書はなかなか使い勝手がいい。白衣に海図を携えて荒海に出てみよう。